

事項	小麦の子実肥大に対する高温と湛水の影響		
ねらい	平成22年産小麦は作況指数64、1等比率58.7%と収量・品質の低下が顕著であった。これは、夏季の高温や多雨といった気象が影響したものと考えられる。小麦に対する開花期以降の高温と湛水が子実肥大に与える影響を明らかにしたので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 小麦に対する開花期以降の高温と湛水が子実肥大に与える影響</p> <p>(1) 登熟の後半、急速に枯れ上がり、粒の肥大が阻害され、減収と品質低下をもたらす。(図1、2)</p> <p>(2) 「キタカミコムギ」や「ゆきちから」に比べ、「ネバリゴシ」は千粒重が軽い品種特性があり、高温の影響で粒厚が薄くなりやすい。(表1)</p> <p>2 小麦の子実肥大不良に対する軽減対策(表2)</p> <p>(1) 酸性土壌を矯正する。</p> <p>(2) 幼穂形成期に10a当たり窒素で2kg、止葉抽出期に葉色に応じて2～4kgの2回追肥、または開花期から7日おきに、3回、2%の尿素を10a当たり100～150L葉面散布する。</p> <p>(3) 地下水位が高く、排水不良の圃場では、畦立栽培を行う。</p>		
期待される効果	小麦の子実肥大不良症状が軽減されることにより収量と品質向上に寄与する。		
利用上の注意事項	子実肥大不良の穂は黒かびが発生しやすいので、収穫が遅れないようにする。		
問い合わせ先(電話番号)	農林総合研究所 転作作物部 (0172-52-4397)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成21～22年度 試験成績概要集(農林総合研究所)		

【根拠となった主要な試験結果】

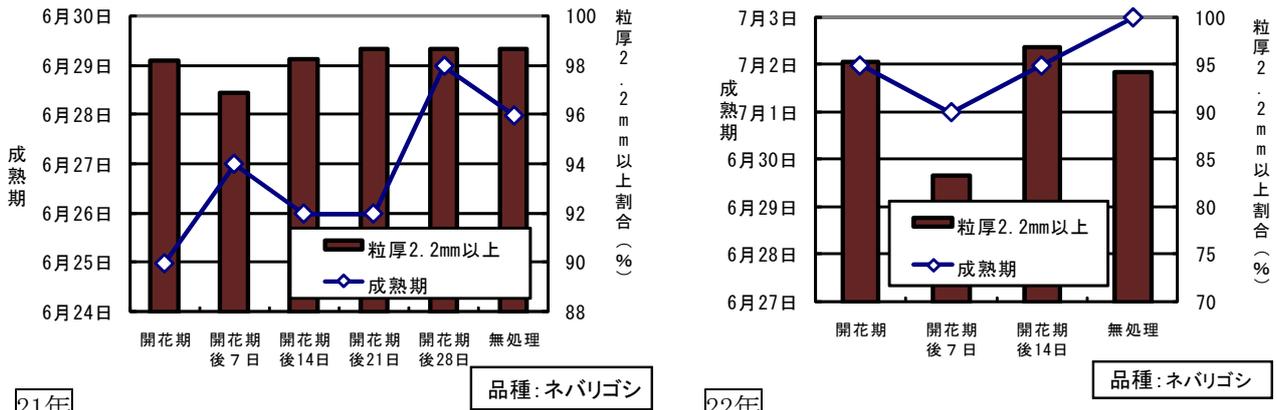


図1 高温処理が成熟期と粒厚割合に及ぼす影響[ポット試験] (平成21、22年 青森農林総研)

(注) 高温処理：21年；昼28℃、夜14℃、5日間 22年；昼30℃、夜16℃、5日間

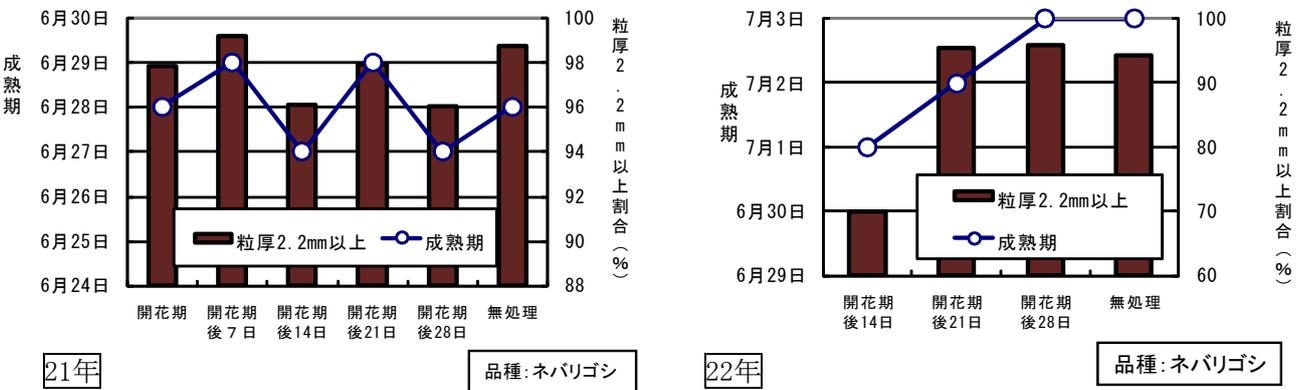


図2 湛水処理が成熟期と粒厚割合に及ぼす影響[ポット試験] (平成21、22年 青森農林総研)

(注) 湛水処理：ポット地際まで3日間。

表1 品種別粒厚割合の低下に対する高温の影響[ポット試験] (平成22年 青森農林総研)

[Redacted Table Content]

(注) 高温処理：
開花期後7日から5日間、昼30℃、夜16℃

表2 子実肥大不良に対する栽培要因の軽減効果 (平成22年 青森農林総研)

[Redacted Table Content]

(注) 1 PH：4月2日の値、播種前苦土 CaCl_2 施用
2 追肥：幼穂形成期、止葉抽出期各窒素2kg/10a
3 葉面散布：開花期から7日おきに3回